

まくら部会長 (JBA 事務局長) 池田 努 様
アサギ(株)取締役東京支店長 浅黄 利洋 様
日本ふとん製造協同組合専務理事 只野 悟 様
富士ベッド工業(株)取締役営業部長 小野 弘幸 様
まくら(株)代表取締役社長 河元 智行 様 (欠席)
(一財) ボーケン品質評価機構東京主任 丸山 智生 様

(一社) 日本寝具寝装品協会専務理事 奥谷 孝良 中村 富夫

JBA 第 5 期 : 第五回まくら部会 議事録

記

1. 開催日時 平成 30 年 8 月 20 日 (月) 10:00~12:00
2. 開催場所 (一社) 日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所内
東京都中央区日本橋小舟町 7-2 小舟町 243 ビル 7F ☎ 03-6661-0213
3. 議題(1) まくら品質表示規程、運用規程のまとめ
 - (2) JBA まくらラベルデザインについて
 - (3) 硬さ、高さ、洗濯性の表記策について
 - (4) その他

議事録

議題 (1)

池田部会長: (プロジェクター資料) まくら品質表示規定とラベル運用規定を最終説明する。
ラベル運用規定はふとん、マット敷もあるので統一規定集にする予定である。

議題 (2)

奥谷専務: まくらラベルの大きさはこれで OK か。 まくらラベルは品質表示表記である。
硬さ、高さ等の性能表記は時間要するので次のステップで表記を考える。
運用規定はふとん品質表示規程集のブックタイプでなく、差替え可能なファイルタイプにする。
GF ラベルは、新 JBA まくら、ふとん、マット・敷ラベル普及と伴に廃止する。

議題 (3)

小野委員: (詰めもの 15 種類サンプル) の説明。硬さは素材での測定表記が良いと思う。
奥谷専務: 側地と詰めもの関係があるが、ウレタン敷の性能表記は素材表記となった。
丸山委員: 詰めもの素材測定は、同側地使用しての詰めもの試験法はある。
浅黄委員: 多種多様な組み合わせなので、製品状態での硬さ、高さ測定表記がよい。
丸山委員: 当社では、頭模型を使用して変位と荷重で測定することが可能であるが硬さ基準は決まっていない。
硬さより高さではないか。硬さを計れば高さもより大きく測定値として重要となる。
浅黄委員: 硬さは触感でわかるが、高さは頭部の重さ (体重の 8%) の沈み込み量である。

小野委員：当社では、硬さは変形値でみている。同側地使用して同詰めものの沈み込み量で判断し 柔らかい ふつう 硬い としている。

中村 JBA：製品の触感は店頭では可能であるが、NET 販売等での標準化策が求められている。

浅黄委員：柔らかい詰めものでも、量により硬くもなるので、製品での測定が基本である。

池田部会長：荷重圧縮法は平板か、ボール球状か。

中村 JBA：製品測定をまずはボーケンやってみるのが第 1 歩である。仰向け状態でボール球形状の頭模型 5 k g での 3 分後の沈み込み量測定し硬さ、高さデータ取りして検討してみる。

浅黄委員：へたりもデータ表記できないか。マット・敷のように表記する方法もある。

池田部会長：まずスタートは、硬さ、高さからである。

丸山委員：高さは測定値そのものであるが、硬さのレベル表記をどうするかがポイントである。

池田部会長：目安として表記すれば消費者判断になるし、業界基準レベルは必要である。

丸山委員：予備圧縮はパイプなどは手ならしして 初期化し測定開始する。

池田部会長：小野委員、浅黄委員、河元委員の各社代表的なまくら 各 10 種類程度をボーケンに持ち寄り実測試験とし、そのデータに対して検討していくこととする。
よって、次回部会は測定試験立会とし ボーケン江東区試験センターで、9 月 18 日午後 1 時 30 分から夕刻まで開催する。

池田部会長：その次の検討課題は、ウォッシュャブル表記についてです。

奥谷専務：ウォッシュャブルの定義をどうするか、1 日で乾くものとするか。

丸山委員：吸水性が高すぎるものは、脱水性が問題でもある。

議題（4）

特になし

以上